

令和7年度 事業報告

令和7年1月1日から令和7年12月31日まで

一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟

1. JBCF ロードシリーズ

令和7年は回復を期待したが登録者数は昨年比5%ダウンとなった。特に子育て世代の30~40代が減少している。その中で明るい兆しは10代が増えており、次世代を担う選手たちがロードレースを走る場としてJBCFを選択している。また50代以上は安定しており、生涯スポーツとしてロードレースが定着してきていることを示している。また自治体等からの開催要望が増えており、自転車競技を通じて人と地域に貢献する理念が実を結び始めた。初開催の大会は長野県木祖村タイムトライアル、ロードレース、香川県小豆島寒霞溪ヒルクライム、神宮クリテリウム の4レース。都市型の観てもらえるレースを増やすためJPTからJクリテリウムツアーとしてクリテリウムが独立。特に公道レースが増えたことは、自転車競技への理解が広がっていると考えております。

(1) Jプロツアー

21 チーム①シマノレーシング、②KINAN Racing Team、③Team BRIDGESTONE Cycling、④マトリックスパワータグ、⑤愛三工業レーシングチーム、⑥群馬グリフィンレーシングチーム、⑦弱虫ペダルサイクリングチーム、⑧CIEL BLEU KANOYA、⑨イナーメ信濃山形、⑩アブニールサイクリング山梨、⑪備後しまなみ eNShare、⑫Bellmare Racing Team、⑬稲城 FIETS クラスアクト、⑭京都産業大学、⑮Astemo 宇都宮ブリッツェン、⑯ヴィクトワール広島、⑰スパークル大分、⑱ヴェロリアン松山、⑲チームサイクラーズスネル、⑳チームユーラシア iRC タイヤ、レバンテフジ静岡が加盟しました。

JPT12 レース、JCT5 レースを開催し、Astemo 宇都宮ブリッツェンが年間チーム総合優勝。JPT 個人総合は金子宗平選手（群馬グリフィン）が2連覇、初年度のJCTは孫崎大樹選手（ヴィクトワール広島）が初代王者に。

(2) Jエリートツアー

38 レースが開催された。個人総合優勝は2年続けてドクターと両立する選手が獲得。2025年は大前翔選手（Roppongi EXPRESS）が獲得しました。U19は新藤大翔選手（EQADS）、

初代 TT チャンピオンは奥山太郎選手（エキップホッカイドウ）、ヒルクライムは成田眸選手（mkw）が2連覇。

(3) Jフェミニンツアー

個人総合優勝は阿部花梨選手（イナーメ信濃山形-F）が獲得、初代 TT チャンピオンはパハリニック2連覇中の杉浦佳子選手（TEAM EMMA Cycling）が獲得しました。

(4) Jユースツアー

個人総合優勝はY1（U17）では東理日楠詩選手（Team FITTE）が、Y2（U15）では茂木陽向選手（Team 一匹狼）が獲得しました。

(5) Jマスタースツアー

個人総合優勝は遠藤優選手（Roppongi EXPRESS）が獲得しました。

(6) 一般大会

「伊吹山ドライブウェイヒルクライム」、「きらら浜クリテリウム」、「大星山ヒルクラム」、「セオフェス」等を実施。

※ 各大会の日程は「2025JBCF Road & Track Series レース開催スケジュール」参照

2. JBCFトラックシリーズ

- ① 6月29日「第59回 JBCF 西日本トラック」（和歌山競輪場）
- ② 7月19-20日「第56回 JBCF 東日本トラック」（松本市美鈴湖自転車競技場）
- ③ 10月4-5日「第56回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ」（西武園自転車競技場）

上記3大会を開催した。②は長野県自転車競技連盟、③は西武園競輪場で東京都自転車競技連盟の協力で開催

3. 加盟登録状況

当年度の加盟登録状況は266チーム、1,868選手。前年比はチーム95%、選手95%となりましたが、10代の登録者が増えている明るい兆しがあります。今後は開催地と連携し、より魅力ある大会運営を実現していくことで、当面の目標である「加盟登録者3,000名」を実現したいと考えております。

大会参加者数は延べ8,968人、前年比101%。

4. 競輪公益資金補助事業

競輪の補助金を受けて、令和7年度の下記事業を行いました。本事業の実施により、全国組織の連盟として、幅広い競技者に向けて日本各地で大会を開催し、日頃の修練の成果を

示す場を提供することで競技力の向上を目指し、一般社会の自転車競技に対する正しい知識と理解を深め、自転車競技の進歩を即し普及促進を図るとともに、自転車競技を通じて人と地域に貢献する基本理念のもと、人流を作り開催地に微力ながら経済的にも貢献できたと考えております。また、競技団体として、安全安心な大会運営やより効果的な広報活動を求められること、インフレによる資材、輸送費をはじめとしたあらゆる経費が嵩む中、当補助金の役割は大きく、また、競輪補助事業をもっと広める活動にも微力ながら注力をしていきたいと考えております。

- ① 4月19-20日 第59回 JBCF 東日本ロードクラシック群馬大会（群馬サイクルスポーツセンター）
- ② 4月26-27日 第59回 JBCF 西日本ロードクラシック播磨中央公園大会(播磨中央公園)
- ③ 6月7日 第4回 JBCF 石川クリテリウム(福島県石川町)
- ④ 6月8日 第22回 JBCF 石川ロードレース(福島県石川町)
- ⑤ 6月29日 第59回 JBCF 西日本トラック(和歌山競輪場)
- ⑥ 7月19-20日 第56回 JBCF 東日本トラック(松本市美鈴湖競技場)
- ⑦ 9月14日 第5回南魚沼クリテリウム（新潟県南魚沼市）
- ⑧ 9月15日 第59回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ(新潟県南魚沼市)
- ⑨ 10月4-5日 第55回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ(西武園競輪場)

5. 講習会

1月25日、2月8日、3月15日に「JCF 公認チーム・アテンダント講習会」を開催しました。Zoom（ウェブ会議サービス）利用によるオンラインでの実施となり、受講者数は各回80名程度。3回の講習会を通じて合計で約240名のアテンダント登録者が生まれ、また、この開催ノウハウにより、今後、全国からの参加がしやすくなることから、自転車競技の普及に大いに寄与することができ、非常に有意義であったと考えております。

6. 年間アワード

JPT は最終戦の群馬で、JCT は最終戦の南魚沼で開催。JPT 以外は最終戦の浦安クリテリウムで行いました。

7. 協賛

今年から小豆島寒霞溪ヒルクライムを全面的にバックアップしていただいている国際両備フェリー株志会社が加わりました。一昨年から加わったガチンコサイクル TV による J プロツアーへの賞金は継続。令和7年度のオフィシャルパートナーはシマノセールス株式会社、パナソニックサイクルテック株式会社、株式会社あさひ、一般社団法人自転車協会、株式会社パールイズミ、弱虫ペダル、ガチンコサイクル TV、株式会社オージーケーカブトの8社、サイクルアクティブプログラムとして、株式会社 NIPPO、マヴィックジャパン株式会社、井上ゴム工業株式会社、LAP CLIP（株式会社マトリックス）、J SPORTS、PR TIME、

PUPURU（株式会社プルインターナショナル）、POWER BAR（有限会社パワースポーツ）、LEOMO、メルセデスベンツジャパンの10社、合計18社から、ご協賛いただきました。

8. 広報

JSPORTS（株式会社ジェイ・スポーツ）、LAP CLIP（株式会社マトリックス）に広報活動の協力を頂きました。

JSPORTS 番組内にて、Jプロツアアのレースリザルトを放映。日本のサイクルロードレースファンに対して、広くJプロツアアの映像を届けることができました。

LAP CLIP は本年も JPT 開催大会全戦において協力いただき、各クラスターのラップタイムや順位を速報として公開。参加者やファンにとっても、大会役員や運営サイドにとっても、リアルタイムの計測情報は、新たな観戦の魅力創出とともに、大変重要な情報となっています。

開催したJプロツアアレース、JクリテリウムレースをガチンコサイクルTVでライブ配信。より多くのファンに映像という形でレースの模様を伝えることができただけでなく、YouTube コメント欄や SNS におけるファン同士の活発なコミュニケーションのきっかけを作ることができました。

ガチンコサイクル TV はレース以外にも Jプロツアアチームや選手の PR の場としてイベントを開催するなど、YouTube 配信だけでなく、リアルの間でも選手とファンとの交流ができました。

昨年に引き続き YouTube チャンネルで Jプロツアアのダイジェストを配信しました。

以上